講演

道路改良の經濟的意義

道路改良會理事　松木幹一郎

多分皆樣は新聞で御覽になつたと思ひますが、我々の會長水野さんが函館に於て演說せられました一節に、大正八年我道路改良會が創立された砌、アメリカ大北鐵道の社長として有名であつたゼームス、ヒルと言ふ人の女婿に當るサミユル、ヒル氏が日本に參りました、此人は道路の改良には非常に熱心でもあり造詣も深かつた、そして我國の道路改良と言ふ事に非常に好意を持つて日本に參られたと言ふことがありますが、此人と我々道路改良會を發起しやうと言つて……集つた諸氏との間に斯樣な話が交換されたのであります、卽ち道路改良の一番急

務とする處は何であるかと言ふ問題であります、其の當時の話では先づ頭腦の改良であると言ふ事でありました、之は頗る意味のある話であると思ふのであります、例へば道路の改良を致すにしても、それは莫大な經費を要する、之は使用するものゝ負擔になるのでありますが此莫大な經費を如何にして捻出するか、其處に頭腦と言ふ問題が起るのであります、又其の費用を適當に使用する上に就いては技術上の細かな點に迄最も進歩した技術的若くは實驗的の考案が要るのであります、斯くの如く頭腦の改良ッマリ知識と言ふ事が道路の改良に付いては離れない問題であります、ソコデ之を道路改良問題の上から見ますと自ら其處に原則があるのであります、其は道路を改良するに就いては先づ相當の建設的費用を要する、夫から其の費用に對する利子、其の費用に對する減損補塡、例へば道路が十五ヶ年保つものならば十五ヶ年間に其の費用を償却するので、十六年目からは又新たな費用が要るから從つて其の以前に減損補塡を爲し了るといふ問題が起るのであります、又其の次には其の拵へた道路を適當に修繕して道路の生命を保つと言ふ事であります……此四ッの費用を引くるめて道路の生命が例へば十ケ五年とすれば十五分して十五ヶ年間に全部支拂を終ると言ふ計畫がなければ道路の改良と言ふ事は經濟上出來ない、斯樣な原則があるのであります、然しながら之を大局より見れば道路の働らきと言ふものは地方及地方と都市間の距離の短縮であつてかゝる道路に付いては國家の政策上自ら異つた見地に立たなければならぬのであります、私は其の事に付いて聊か皆樣に申上て見たいと思ふのであります、凡そ此國家の進運に付いては時代があります、時代には推移があります、此國家の發達文化の進展には又歴史があります、然らば今日本はドウ言ふ歴史の程度にあるか、如何なる推移の道程にあるかを、嚴肅なる批判の上に立つて之を考へますと、甚だ感心の

出來ない狀態にあるのであります、諸君も御承知の歐羅巴の大戰、あの當時の日本は非常な經濟的黃金時代に出會ひまして、正貨を貯ふること二十餘億、會て日本が文明國の斑に入つて以來、經濟的には一番盛んな時代であります、夫が今日如何でありますか、貿易は逆轉に逆轉を重ね、思想問題は惡化し、階級の鬪爭は可なり深刻に動きつゝあります、之を經濟的に考へますと頗る多難なる時代と申すより外ないと思ふのであります、そう言ふ時代に於て、日本國民はどんな覺悟を持つて居るかと反省して見まするに此覺悟の現れたものに成程と首肯さるべきものが見へないのであります、此節產業立國と言ふ聲が隨所に起つて居ります、然しながら此產業立國なるものは何も珍らしい事ではなく舊くから此聲はあるのであります、然して一歩退いて考へて見ますと歐羅巴の戰爭の原因は何であるか之を解剖的に申しますと各國民が生存する處の夫に向つて互に藻掻いた結果があの大戰爭となつたのであります。

夫から人口、之はマルサスの議論する通りでないかも知れないが兎に角殖えて行く、一方天然の資源は其の割に殖えて居らない、少くとも開發されて居らない、そこで此の人口問題の急に應ずる爲に各國が皆產業立國の主義を立てゝおるのであります、然るにも拘らず、天然資源は少くなる……市場は競爭の爲に段々狹くなる、原料はあつても之を有效に搬出して所謂產業立國の目的物にする處の設備が十分でない、そう言ふ困難な時代になつて來たのであります、殊に生活の向上、夫れは何れの國に於ても文化の進歩に從つて向上し、同時に生活費は多くを要する、勞銀が高くなる、資源が少い上に勞銀が高くなる、其の拵へたものが安からう筈がない、高くて物が惡かつたら誰れが買つてくれませう、夫では產業立國を稱えても餘り效果は擧らない、市場は競爭が激しいのであるから原料を安くするか、若くは科學の力に依つ

て生産費を安くすると言ふ外に方法はない……然らば日本の力、日本の進歩が之に應ずるやう卽ち國の文明が首肯する丈に伸びて居ると申されませうか、甚だ六ヶ敷い問題であります、只産業立國を唱えたからとて直に目的を達し得るものではない、其の事丈で今日國民の難局を轉回する事が出來ると思つたらこれは非常な間違であります、然し私は或る方面に於て唱えて居るが如く工業文明が極度に行詰つて居るから此際農に歸れ卽ち百性に歸れと言ふ說もあるが今日の文化の狀態では、そう言ふ事も出來ないと思ふ、然し國民は富源の開發に最善を盡さなければならぬ、卽ち原料の開發の出來るものは極力開發しなければならぬ、或は土地に依つて生産の出來るものは極力之をやらなければならぬ、之は普通の所謂産業殊に工業の外にやらなければならぬ、之は極めて緊要な問題でありまして、そう言ふ考へから出發いたしますと此北海道の如く、土地は廣く未だ開發の餘地の十分ある

土地に就いては大いに考慮しなければならぬと思ひます私は之迄屢々當地にも參つたのですが、道路の改良と言ふ特種の目的を以て參つたのは初めてであります、從つて今日の北海道の狀態に就いて精しく承知しませんから、急速に議論を立てる事は出來ませんが、諸君の御意見を聞き當局の說明を聽き又實地に就いて餘程研究した上でなくては具體的斷案を下す事は出來ない、同時に他の人達もそうだろうと思ふのであります、只左樣な細かな問題に涉らなくとも、凡そ物には直感と云ふものがあります、私は此直感卽ち理屈以外に考へたところに、考察を廻らすといふことは、必ずしも無用の事ではないと思ふのであります、私は最も今日必要である處の人口問題に就いて豫て聊か考へた事もありますが、先般此問題解決の一助ともならばと思つて佛領印度支那及其の他の各地を視察いたしましたが其の時調べたことゝ私の考へた處とが今日北海道に就いて考へて見ると何處か似ておりは

しないかと思ふのであります、即ち佛領印度支那は御承知の通り佛蘭西人が占領して約六十年になります、此處には佛蘭西の資本家或は地主が自分の勘定づくであの廣い印度支那の土地の内で最も都合の宜さそうな場所を願書一枚で貰つてゐるものが幾らもあるが、元來佛蘭西人は拓殖に適してゐる柄でない、佛蘭西の政府が鐵道を敷いたり道路を開き港灣の設備をしてくれるだろう、夫が爲に段々土地の値段も上るだらうと、そんな事を待つてゐる、夫れが多いので、私が參つた時日本の資本家に權利を賣りたいと言ふ希望を申出た人が可なりあつたのであります、も一つは佛蘭西人は彼處には植民といふ殖民はして居りません、總體で二萬人餘しか居りません、佛蘭西政府は土人の國内移民を奬勵してゐるが其の割に希望者がない、現在では或場所、區域を確定して點在的に移民してゐる、そこで印度支那には鐵道と道路とが必要であるが鐵道は漸く一千二百哩道路は一萬五千哩出來てゐる、此道路は非常に立派なものである、處が奥地へ入ると道路は尙不十分で移民が各所に點在してゐて十分に之が聯絡を圖る事が出來ない爲に非常に困つてゐるやうな狀態であります。

今申げた點に顧みて、日本の今日の狀態では、此北海道に多大の考慮を拂はねばならぬと思ふ、土地廣く開發すべき資源の澤山ある此北海道に對しては相當研究しなければならぬ、國家經濟上から見ましても只有ると言ふ丈けで放任して置ては駄目だ、私は此北海道に付いては詳しい事は知りませぬが、今申した外國の例に當嵌めて二つの原則のあることを申して見たいと思ひます、即ち第一に點在的に移民が行はれてゐる、之を交通方法即ち道路を以て繋ぐと言ふことは非常な困難であります、道路は御承知の如く產物を運搬し之を廉價に市場に出すと言ふ捷徑であり、移民が生活を享樂する唯一の方法であり、土着心を起さする唯一の施設であります、だから道

路は必要であるが夫には莫大な費用がかゝる、從つてそれには限度がある、其處に困難がある、然し何んと言つても必要缺く可からざるものであるから、之をやると云ふ事を前提にして考へて見ますと、成るべく移民を集中的にすることが必要である、點在主義より集中主義にやらねばならぬと言ふ說が出て來るのであります。第二に今の樣な狀態から推測して此印度支那に在るが如く、只土地の權利だけを有つて開發するものがない、何時か交通機關が出來るだろう、そして何時か土地の値段が上るだろうと手を空しくして待つてゐる樣では駄目だ、之を何とか工夫しうまく纏めて、開發し得るものは一日も早く開發して利用する、そうなると交通と云ふ問題になる卽ち道路と云ふ問題になる、成る可く點在移民を避けて集中方法を取ると言ふ事にもなる、其處には何等かの方法もあろうと思ひますから其の方法を取り得る餘地があるならば其の方法に努力する必要があると思ふ。今日交通機關は澤山ある、飛行機、無線電信、陸には鐵道、水には船舶等色々あるが陸上では何んと云つても道路であります、此道路と言ふものは從來と違つて今日では少くとも自動車の通ずる道路を造らねばならぬ、移民を招來する前に造るのは無論である、從つて道路系統を拵へ、組織を先づ作らねばならぬ、そう言ふ考への下に推論して行きますと、此日本の中で今申しました若干の餘裕のある處は樺太を除いては本道より外にない、それは他にもあらうが本道とは比較にならない、どうしても北海道は朝野擧つて問題にせねばならぬのであります、今日の如く經濟的不安時代、然してそれが將來急に立直る見込のない時代に於て、どうしても北海道を研究しなければならぬと思ふのであります、研究の方法としては主として道路交通の問題を反對する事は出來ないのであります、此道路は單なる一地方の問題ではない、今日國家交通の關係に於きまして地方と地方との距離の短縮でありま

す、本道の如きは露西亞とは隣り合せであり支那なり、滿洲シベリヤを通じて、歐羅巴に於ける經濟上の盛衰が直接本道又は日本全體に及ぼすのであります、斯樣な時代になつたのでありますから、日本の政治家、政府當局は此問題を平面的に考へないで、もう少し上から卽ち高所から問題を見て我國の經濟を立直すにはどふ云ふ處に力を入れれば宜いかを深く考へて貰ひ度いのであります、序に申上て見度きは人口問題、食糧問題の爲に移民論がありますが、實際は何ふかと言ふに亞米利加には十二三萬の邦人が居るが色んな迫害を受けてゐる、一部宗教家等の反對論もあるが、國際關係に於てアメリカにはもう發展は出來ない、布哇には十一萬人ばかり居るが布哇に生れた子供の外彼處へ行くことは出來ないから殖えない、南米ブラジルへ行く者は或年限の後多少の金は蓄へて歸るが、先方で地主となり或は小作人となつて奥地に入つて行く者は割合に困難な事情に遭遇してゐるのであります、夫は其の努力に依つて農作物は相當に出來るが、之を搬出して市場に賣出す方法が十分うまく行かない、又あつても其の間の取扱を爲す商人の犧牲になつて居る、之は本道に初めて產物が出來た時分に於て之が生產に從事したる農家の狀態を考へますと、頗る事情の似たものがある事は想像が出來るのであります。

斯樣な困難は道路の不完全とそして金融機關、商業機關が無いからであります、此外國移民にはどうしても金融機關と商業機關が伴はなくてはうまく行かぬが、憾むらくは日本は其處まで進步しておりませぬ、之れ日本移民が餘り殖えない原因であります、此頃滿洲、沿海洲方面或は朝鮮の先あたりへ移民したらよからうと言ふ議論もあるが、之は昔小村外相がアメリカ問題に打付かつた時に其拔け道として斯樣な議論を唱ふるに至つたものであるが、之も亦中々六ケ敷い話で、嘗て滿鐵が百萬人を移すと言つたが、今日十八萬人しか行つてゐない、朝

鮮には數十萬人を移すと言つたが今日其の數分の一位しか行つてゐない、移民の難かしい事は之で分るのであります、飜つて內國移民は如何かと言ふと、之は昔獨逸で盛んに試られたものでありますが、獨逸に於ても國內移民と云ふ事は、豫想された程の成績を擧げてゐない、夫には色々の事情が有ます、例へば內地の農民を北海道に移住させると言ふ計畫を以て假に考へて見ますと、澤山來るかと思ふと必ずしもそうでない、餘計な議論をするよりは統計を見た方が餘程早い、何萬人と云ふものが來るかと思つたら年々僅に三千か四千である、之にも理由があります、御承知の通り內地移民と申ましても机上で議論する樣に容易なものではない、皆困難があります、今日の國民は相當に知識が發達してゐるから、生活に享樂の無い所には行かない、之は事實が證明しております、其れには一時に其の惡い條件を除く事は出來なくとも徐々に取去る事に努力せなければならぬ、其の內に一番目に立つものは道路の設備であります、之は先程も御話した通り莫大な金がかゝる、其の金が容易に出來ない、北海道民丈けで出すと言ふ譯にも行かない又國家が全部之を負擔すると言ふ事も六ケ敷い、然し大局から見て必要とするものならば所謂必要あるものには自ら途ありと言ふやうなもので、何處かに解決の曙光を其處に見出し得ると思ひますが、今日迄未だ色々の附帶條件の研究が熟しておらぬのでありまして、本道の方々としては今一段の努力をしなければならぬと思ふのであります、今回の道路改良會支部發會式の如きも其の一つの現であると思ひますが、之丈で滿足は出來ない、更に研究を重ね、努力を進めなければならぬと思ひます、此道路改良と言ふ問題は財政の問題や前途に色々の難關はあるが、最も必要なりと一般が認むるやうになれば出來る、要するに先づ頭腦の改良である、道路に對する知識の普及である、道路が交通上は勿論、產業上其の他何れの方面から見ても

實際必要である、改良しなければならぬと言ふ事を痛切に頭の中に入れてやらなければならぬ、一般の輿論が萬難を排してもやらねばならぬとなれば、夫が國家の政策となる、そうすれば實現する事も近いであらうと考へられるのであります、今一つ附加へて置きたいのは、我々の目的は只本道に於ける主要市街の道路改良を以て滿足しないのであります、本道の主要市街の繁榮は一に本道富源の開發によらねばならぬことの明瞭であります以上、之を全體的に見て奥地の道路を改良することが卽ち諸君等市街居住者の經濟的發展を促がす所以と考へますによつて、諸君等に於ても宜しく聲を大にして此全體的計畫に努力贊畫せらるることを至當と考へます、道路改良と言ふ問題の中に動いてゐる所の原則的の事柄は以上の如くであります、之等に就いて諸君の御考慮を煩はし度いのであります、勿論述べ來つた處丈けでは總てを盡して居りませんが我道路改良會には特殊の專門家が居ります、我々一行は今回の來道を機會に各地の實情を拜見する譯でありますが、其の際地方諸君の御意見を聽き又我々が見聞と實地に感じた事柄等に依つて調査研究を進めたならば、或は若干、將來の北海道と言ふ問題の解決にも資する事が出來ようかと考へるのであります。（完）

紹介

工政會發行　日本工業要錄

本邦內官公私各方面に於て發行せらるゝ、定期不定期の工業關係書籍雜誌の要領を蒐集摘記したものであつて、我國工業界に於ける新らしい試である、集錄する範圍は隨分廣汎なものであつて、此計畫が忙がしい斯界從業者の爲に貢獻する所の多大なことは贅言を要しない、唯だ創刊號を拜見した所では もー少し紹介の內容を詳細に叙述されたならば一層の效果を擧げることゝ思ふ、每月一回發行一ヶ年七圓である（田中生）